

令和7年度全国障害者スポーツ大会競技規則の改正に伴う千葉県障害者スポーツ大会規則変更について

千葉県障害者スポーツ大会実行委員会

千葉県障害者スポーツ大会(以下、県大会)は、全国障害者スポーツ大会の競技規則を準用して実施しています。全国障害者スポーツ大会の規則変更は、県大会の競技規則に反映されますので、参加予定団体の皆さんは確認のうえご参加ください。

また、(公財)日本パラスポーツ協会において、今後令和7年度競技規則が発表され変更が生じた場合は、当協会HP等でお知らせいたします。

1. 陸上競技・水泳・フライングディスクにおける視覚と聴覚の重複障がい者への配慮(令和6年度から継続)

令和5年(2023年)の鹿児島大会より、視覚と聴覚の重複障がいのある選手への参加機会を確保するにあたり、陸上競技、水泳、フライングディスクにおいて、競技中の配慮が行われました。

視覚と聴覚の障がい重複している競技者が出場する場合は、事前の入場申請を行うことにより、介助者とは別に通訳者1名を競技エリア内に同伴することができるようになっています。ほかにも競技中の安全確保、スタート合図に配慮が施されています。

2. 障害区分の特定に係る「補足説明文」等の提出(令和6年度から継続)

手帳所持者の中には手帳の障がいの程度と現在の程度が異なる方がいます。大会の競技参加に公平性を保つため、これに該当する方は、申し込み時に「補足説明文」等を提出していただきます。

詳細は「身体・精神 参加申込みについて-解説-

3. アーチェリー県大会を障スポ協会事務局が実施

アーチェリーは、令和3年度、4年度に千葉県身障者アーチェリー協会が主管団体として大会運営を行ってきました。令和7年度は諸事情により令和2年度以前に戻し、千葉県障がい者スポーツ協会が大会運営の事務的な部分と当日の進行について担当することとしました。

なお、千葉県身障者アーチェリー協会には、今後もこの大会の競技運営と、競技の普及と競技力向上に尽力していただきます。

以下のとおり、令和8年度、令和9年度に規則が変わる予定です。

（令和8年度より）

3. 「グランドソフトボール」から「ブラインドベースボール」へ競技名変更

この競技は、「全日本グランドソフトボール連盟」の名称変更に伴い、令和8年（2026年）の青森大会より、「グランドソフトボール」から「ブラインドベースボール」へ名称が変更となる予定です。千葉県内では、競技人口が少なく県予選大会を実施していないため、競技に触れる機会が少ないのですが、競技団体による体験会を年間を通して実施しています。体験会の詳細は当協会のホームページをご覧ください（パラスポーツ競技団体支援事業）。

（令和9年度より）

4. 年齢区分の見直しおよび変更

（公財）日本パラスポーツ協会では、障害別・競技別に個人競技の参加選手の年齢の検証を行い、以下の4点について検討が進められてきました。なお、導入時期については、周知、研修等の準備期間を設けた上で、令和9年（2027年）の宮崎大会より導入する予定になります。

①身体障害者、知的障害者の区分を統一する。

②年齢区分は4区分にする。

③参加状況に応じて、競技種目の「年齢共通」を設置することができる。

（例：1部と2部が同区分で競技する等）

④年齢区分の対象競技は、陸上競技、水泳、卓球（身体・知的）、フライングディスク、ボウリングとする。

【改正案】

（1）1部（19歳以下）

（2）2部（20～39歳）

（3）3部（40～59歳）

（4）4部（60歳以上）

（同）

5. 障害区分の見直しおよび変更

陸上競技、水泳の障害区分の検証を行い、新たな障害区分を検討中です。

なお、現行の障害区分（陸上競技計28区分、水泳競技計26区分）をそれぞれ見直し、区分統合を含め、それぞれの障害区分を5区分程度減らす方向で見直し案を作成中です。

また、知的障害における障害区分の導入、低身長（小人症）の方の参加等、新たな障害種別の参加を検討中です。

導入時期については、周知、研修等の準備期間を設けた上で、令和9年（2027年）の宮崎大会より導入する予定となっています。